



- 神戸地区の基本計画は平成6年度に策定し、平成22年度に改定。計画改定後10年以上が経過
- 改定基本計画に基づき整備を進め、平成28年度に「棚田ゾーン」を中心に第Ⅰ期開園。開園後7年目を迎え、里地里山の景観保全・再生、動植物の生息・生育環境の保全、市民協働による体験学習や文化継承の場の提供など「里地里山文化」の継承に寄与
- 厳しい予算状況において、「森のゾーン」等において未開園区域の整備による公園の魅力向上・利用促進を図るとともに、「自然保全ゾーン」等において里地里山の持続可能な保全活用に取り組むことが課題
- 基本計画の基本理念や整備方針、里地里山のランドスケープ計画は継承しつつ、近年の社会情勢の変化、事業の進捗状況及び開園後の利用状況等を踏まえた利用計画、土地利用計画及び施設配置計画等を見直すことで、現状の課題に対応するとともに、これからの里地里山の保全活用モデルとなる公園づくりを目指す

現行計画（平成23年1月改定）

基本理念

「自然と人との共生、人と人との交流」

神戸地区の整備方針

「里地里山文化公園」を目指す

- ①里地里山景観の新技术導入による再生・継承
- ②伝統的な自然観の海外発信
- ③大規模な里地里山の「動態」保全・継承モデル
- ④持続可能な新しいライフスタイルの提案

神戸地区の利用の考え方

「身近な森としての利用」

棚田空間／自然の宝庫／緑の活動

神戸地区の土地利用計画

- 水と緑のゾーン
- 自然保全ゾーン
- 棚田ゾーン
- 森のゾーン

社会情勢等の変化

神戸地区の課題

未開園区域の
効果的な整備推進

公園の魅力向上
による利用活性化

広大な里地里山の
持続可能な保全活用

事業の進捗状況
開園後の利用状況

計画改定の方向性

①基本理念等の継承と実現

- 「里地里山文化公園」等の理念・方針を継承し、社会情勢の変化、公園へのニーズ等を踏まえた実現手法として“里山のリノベーション※”に取り組む

②官民連携による公園利用の活性化

- 「森のゾーン」等において、官民連携でのアウトドア利用の導入による公園利用の活性化と里山風景の創出を目指す

③産官学民協働による持続可能な里山管理

- 「自然保全ゾーン」等において、産官学民の多様な主体との協働による、持続可能な里山環境の保全活用に向けたモデルとなる取組を推進する

④保全利用に応じた施設配置等の見直し

- 開園後の利用状況、今後の保全利用の計画を踏まえた、公園全体の施設配置・動線等の見直しを行う

※リノベーション（renovation）とは
修復・更新によって、機能を向上させたり価値を高めること